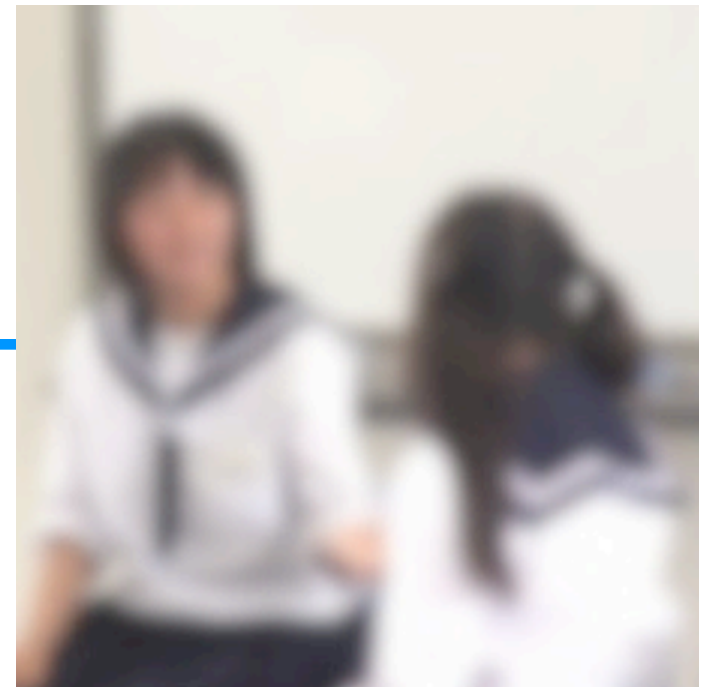


学校外国語教育における コミュニケーションの態度と気づき ～英会話コンテスト出場者への質的調査・分析～

2012年度秋学期 政策・メディア研究科 最終発表

遠藤 忍 (81124262)

2013年 1月 30日実施



- **はじめに**
 - 研究の目的・背景・研究事例について
- **コミュニケーション能力とコミュニケーションへの態度**
 - 「コミュニケーション能力」の学術理論の整理・検討
 - 学習指導要領における「コミュニケーション能力」の概観
- **英語インタラクティブ・フォーラム2012の質的調査・分析**
 - 先行研究に基づく仮説と分析の観点の整理
 - 生徒から得られた記述・口述のデータの分析と結果提示
- **考察と結論**
 - 質的調査・分析の結果の考察と、論文全体の結論

- **はじめに**

- 研究の目的・背景・研究事例について

- **コミュニケーション能力とコミュニケーションへの態度**

- 「コミュニケーション能力」の学術理論の整理・検討
- 学習指導要領における「コミュニケーション能力」の概観

- **英語インタラクティブ・フォーラム2012の質的調査・分析**

- 先行研究に基づく仮説と分析の観点の整理
- 生徒から得られた記述・口述のデータの分析と結果提示

- **考察と結論**

- 質的調査・分析の結果の考察と、論文全体の結論

本研究の目的とリサーチクエスチョン

- 「コミュニケーション能力」の育成に重点を置いた公立中学校の外国語教育を通じて、学習者が得る**コミュニケーションへの態度と気づき**を特定する
 - 学校外国語教育が、コミュニケーションに対する児童・生徒たちの気づきを促し、これを通じて他者とやりとりしようとする肯定的な態度を育むということを主張する
- リサーチクエスチョン

「コミュニケーション能力」の育成に重点を置いた公立中学校の外国語教育を通じて、

- 1) 生徒たちは「コミュニケーション」についてどのようなことに気づくか。
- 2) 生徒たちは「コミュニケーション」についてどのような態度を示すか。
- 3) 上記の気づきや態度はどのような関係にあるのか。

- コミュニケーション能力の要請と多様化
 - さまざまな媒体・領域・文脈
 - 「**社会に出て活躍する**ために必要だと考える能力要素」
としてのコミュニケーション能力 (経済産業省 2010)
 - 「**個人生活でも**そして**公的な生活でも**重要」 (Savignon 1997)
- コミュニケーション能力育成の重要性
 - コミュニケーションの**体験的機会**を得る環境としての**学校**
 - 外国語を通じて「**分からない**」「**伝わらない**」を経験し、
コミュニケーションへの**意欲**や**自他の理解**を促す
 - 「『伝える技術』をどれだけ教え込もうとしたところで、
『伝えたい』という気持ちが子どもの側にないのなら、
その技術は定着していかない。」 (平田 2011)

- 中学生(2・3年生)を対象とした“英会話のコンテスト”
 - 全国でも茨城県のみの実践
 - 校内代表 → 予選 → 県大会
- 学年別・ランダムな3人のグループで、与えられたテーマに関して自由に会話を行う
- 「**双方向性を重視した**
コミュニケーション能力を高める」

審査項目

 - 「**表現力(通じやすさ, 自然さ, 正確さ)**」
 - 「**豊かで適切な内容**」
 - 「**協調性のある親しみやすい態度**」



審査の観点	主な審査上の視点
表現	・ 場面や状況にふさわしく,かつ正しい語彙や文を使っていた。 ・ 適度な発話量と適切なスピードで話していた。 ・ 日本語は使わなかった。 など
内容	・ 豊かでふさわしい話題を提供した。 ・ 相手の話を受けながら自然な話題を展開していた。
協調性のある 親しみやすい態度	・ 協力的な質問やコメントをしていた。 ・ 会話を独占せず、他に配慮したやりとりをしていた。 ・ 楽しそうにコミュニケーションしていた。 ・ 間違いを恐れないで話そうとしていた。 など

- はじめに

- 研究の目的・背景・研究事例について

- **コミュニケーション能力とコミュニケーションへの態度**

- 「コミュニケーション能力」の学術理論の整理・検討
- 学習指導要領における「コミュニケーション能力」の概観

- 英語インタラクティブ・フォーラム2012の質的調査・分析

- 先行研究に基づく仮説と分析の観点の整理
- 生徒から得られた記述・口述のデータの分析と結果提示

- 考察と結論

- 質的調査・分析の結果の考察と、論文全体の結論

応用言語学における「コミュニケーション能力」

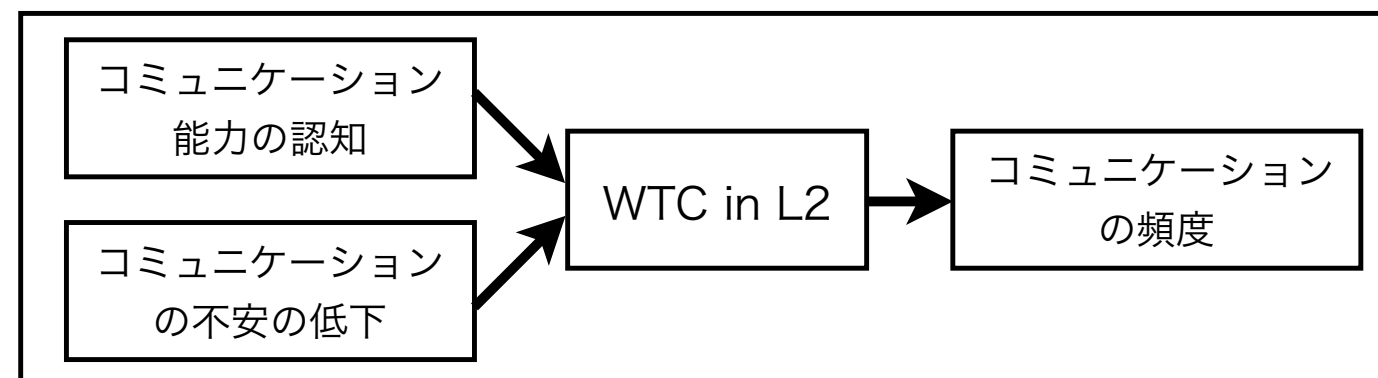
- Communicative Competence の議論の起こり
 - 言語知識と運用の区別 (Chomsky 1965) に対する批判として
言語使用の適切さ・ふさわしさも習得されるべきである、と主張された (Hymes 1972)
- 外国語教育の文脈における議論の整理
 - Canale & Swain (1980) および Canale (1983) による理論研究
 - **文法能力、社会言語能力、談話能力、方略能力**
 - 統合的な理論：4つの要素どうしが影響しあう
- 応用言語学の枠組みの限界
 - 「**言語至上主義**」かつ「**発信者中心モデル**」(山中 2006)
 - 能力(Competence) = 知識(Knowledge) の捉え方によって
情意的側面(態度・動機)が含まれなかった (八島 2004)

- 異文化コミュニケーション研究における“3つの要素”
 - **言語・文化の異なる他者**とのコミュニケーション
 - **知識、動機、技術** (Lustig & Koester 2003 ほか)
 - ヨーロッパ言語共通参照枠における「**一般的能力**」への記述
- 3つの要素の関係性と「動機」への着目
 - 目的を持つ**動機**→**知識**に基づく計画→行動を起こす**技術**
(池田・クレマー 2000)
 - コミュニケーションの不確実性や不安への対処に必要な要素には「**相互作用への動機**」が含まれる (Gudykunst 2005)
 - 異文化間コミュニケーションの発達の最初の段階には「**好奇心**」をはじめとする動機が伴う (Benett 2009)

コミュニケーションへの**動機＝意欲**が重視されている

Willingness to Communicate と「自信」

- 第二言語でのWillingness to Communicate(WTC)の研究
 - McIntyreら(1998) による研究
 - 「**コミュニケーションしようとする意思**」
 - 個人の特性だけでなく、状況からの影響を受ける
- WTCに影響する要素：**不安が低いこと・能力の認知**
- 日本人学習者の文脈における、WTCに影響する要素
 - Hashimoto (2002) : 学習動機づけ
 - Yashima (2002) : 「国際的志向性」



コミュニケーションへの**自信**が、意思に影響している

学校外国語教育とコミュニケーション能力

- 学習指導要領における、言葉の重視
 - 「**生きる力**」にみられるコミュニケーションの重視
 - 現行指導要領における「**言語活動の充実**」
 - 「知的活動、感性・情緒等、コミュニケーション能力の基盤」
 - **発信型のスキル中心モデル**
 - 「まとめる」、「表す」、「伝える」、「話し合う」、「発表し合う」
- 外国語科目標とコミュニケーション能力 (文部科学省 2008)
 - ①言語・文化の**理解**、②コミュニケーションへの**態度**、③**コミュニケーション能力**、の3つの柱
 - 教科としての最終目標は「③コミュニケーション能力」の育成
 - 知識や技術の前提として、態度を育成する必要への言及

知識やスキルを裏打ちする**態度の育成**は不可欠
「**自分と異なる他者**」と接する体験的機会としての外国語

- はじめに
 - 研究の目的・背景・研究事例について
- コミュニケーション能力とコミュニケーションへの態度
 - 「コミュニケーション能力」の学術理論の整理・検討
 - 学習指導要領における「コミュニケーション能力」の概観
- **英語インタラクティブ・フォーラム2012の質的調査・分析**
 - 先行研究に基づく仮説と分析の観点の整理
 - 生徒から得られた記述・口述のデータの分析と結果提示
- 考察と結論
 - 質的調査・分析の結果の考察と、論文全体の結論

I.E.F.の実証研究：遠藤(2010)の結果

- 期待される効果：**態度や意欲、積極性**に関すること
- 生徒たちの感想：「うまくいかなかった」「楽しかった」
 - **会話が維持できなかった** = うまくいかなかった
 - **他校の友達ができた** = 楽しかった
- 出場者の気づき：4つの側面
 - **言語的**な側面 (文法、表現、発音)
 - **身体的な方略** (目線、ジェスチャー、明瞭性、あいづち)
 - 会話の**内容** (話題や自分の意見を持つこと)
 - **意欲や配慮** (分かりやすさ、楽しさ、笑顔、話を聞く)

遠藤(2011)の結果	現行の審査項目	Saito(2011)の審査観点	コミュニケーション能力理論
言語的な側面	表現力 (正確さ、自然さ)	表現 (効果性と正確性)	文法能力・談話能力 (Canale 1983)
身体的な方略に関すること	表現力 (通じやすさ)	表現 (流暢さ)	方略能力 (Canale 1983) スキル (Spitzburg & Cupach 2001)
会話の内容に関すること	豊かで適切な内容	内容 貢献 (話し合いの構成)	社会言語能力・談話能力 (Canale 1983)
コミュニケーションにおける 意欲や配慮	協調性のある 親しみやすい態度	貢献 (他者への手助け)	動機 (Benett 2009) WTC (MacIntyre et. al 1998)

用語の定義とデータの種類

- 用語の定義
 - 気づき：その後の**行動変化**に結びつくことから**意識的に発見**すること
 - 態度：対象の**感情的・認知的な捉え方**
- I.E.F.に参加した生徒たちの練習過程に関わりながら、生徒たちの発見や行動変容への意識(=気づき)、コミュニケーションの捉え方(=態度)を質的に分析する
 - 会話練習映像を用いた「**動画を見る振り返りの調査**」
 - 練習後に生徒が記入する「**練習日記**」
 - やったこと、気づいたこと、感想
 - 大会直後の「**振り返りシート**」
 - できたこと、できなかったこと、感想・気づき
 - 大会5ヶ月後の「**事後の振り返り調査**」

調査対象のフィールドについて

- 2つの中学校をフィールドとして調査を実施
- 茨城県・古河市内大会と、これに向けた練習を対象
 - 古河市内大会は2012年7月2日に実施
 - 上位大会出場生徒は、その大会が終わるまで調査を実施

- 中学校X
 - 5月下旬より練習開始
 - 中3：3名 中2：3名
 - トピックに適した話題の「ネタづくり」を行い、暗記と会話練習を実施
 - 上位大会に4名が出場

- 中学校Y
 - 6月中旬より練習開始
 - 中3：3名 中2：4名
 - トピックにあわせた会話を繰り返す練習を早くに実施
話題の深まりが小さい印象
 - 上位大会に3名が出場
県大会Bに1名が出場

- エスノグラフィーの方法に基づき (箕浦 1998; 小田 2010) 、生徒たちの記述・口述データをカテゴリ化する
- 分析の切り口・視座は、以下の4観点

✓ **言語的側面に関わるもの**

「表現力」のうち、英語という言語に特有なもの

✓ **言語以外の要素に関するもの**

「表現力」のうち、身体的な方略や流暢さに関わるもの

✓ **会話の内容に関するもの**

「適切な内容」に関わるもの

✓ **他者に対する態度に関するもの**

「協調性のある親しみやすい態度」に関わるもの

- はじめに
 - 研究の目的・背景・研究事例について
- コミュニケーション能力とコミュニケーションへの態度
 - 「コミュニケーション能力」の学術理論の整理・検討
 - 学習指導要領における「コミュニケーション能力」の概観
- **英語インタラクティブ・フォーラム2012の質的調査・分析**
 - 先行研究に基づく仮説と分析の観点の整理
 - 生徒から得られた記述・口述のデータの分析と結果提示
- 考察と結論
 - 質的調査・分析の結果の考察と、論文全体の結論

「気づき」の傾向 - 分析のアプローチ

- 4つの切り口にしたがって生徒たちの記述・口述データを色分けによってカテゴリ化
- データ種ごとに記述をまとめ傾向を概観した

6月28日撮影・録音 中学校X MG・RF・SK		
発話番号	発話者	発話内容
0628-1	Author	これね、今ちょっとごめんね、録音を録ってるんだけどね。それなんでかって言うと、座っていいから、これ見ながら、自分がどんな話をしていたかっていうのをちょっと聞いてみて、で、自分の反省とか、もっとこうした方が良くなっていうの、感想をちょっとこれで、喋ってみてもらいたいんだけど、OK？ ちょっと見てみよう。
0628-2	Author	見ながら自由に。
		<映像音声開始>
0628-3	RF	もうちょっとゆっくりでもいいかなー？
0628-4	Author	こっから、こっから。 [自己紹介を終えた男子2名が自分のネタが書いてあるファイルを見に戻ったシーンを見て]
0628-5	SK	みんなみんな動き出すっていう。
0628-6	Author	不安だろ、不安だろ？
0628-7	RF	あらららら。
0628-8	RF	やっぱまとめてから話そう。
0628-9	Author	まとめてから話す、そう。
0628-10	RF	I have never read ... マガジン、あ、ちがう、サンデー。私は今まで読んだ事がない。
0628-11	Author	うん、I have never read Sunday.
0628-12	SK	もっと大きい声で言えば良かった。
0628-13	Author	もっと大きい声で言えば良かった、と。
0628-14	Author	自分が？
0628-15	SK	はい、声小さいですね。
0628-16	Author	自分の？
0628-17	SK	That's too bad. が全然聴こえなかった。
0628-18	Author	これカメラの調子が悪いって言うのもあるけど。
0628-19	Author	すごいこれ気持ち伝わった表現だね。 [SKが"Why do you like drawing picture?"と聞いたのに対してMGが"I like draw!"と言ったこと]
0628-20	Author	ここようやく三人のひとつの共通の話題に入るよね。 [ポケモンの話を3人共通の話題として話すようになって]
0628-21	SK	あー。
0628-22	Author	これ、用意してた？今のところ、Satoshi have なんとらんたらって。
0628-23	SK	はい、でもあんま、暗記してなかった。だからちょっと。
0628-24	Author	あんま暗記してなかったんだ。
		<映像音声終了>
0628-25	RF	やばい、考えるときになると、俺ダメだなー。相手の顔見ると。
0628-26	FH	えーなにこれー。
0628-27	Author	どう思った自分のみてみて？ どう？
0628-28	RF	なんか全然、自分の言いたいことは言えていたんですけど、他人に振られた時の対応と、その相手の話題についてのツッコミっていうか質問っていうかは、そういうのはまだまだだなんて思いました。
0628-29	Author	どうだった？
0628-30	SK	えっとー自分的には、人に振った話題に触れることはできたんですけど、やっぱ自分の話題にちょっとつかかっちゃって。やっぱ暗記が必要。
0628-31	Author	暗記がな。どう思った？
0628-32	MG	自分の好きなことをcan I talk first? って言えない。あとちょっとしゃべれなかった。
0628-33	Author	それはね、目の上のたんこぶがここに二人いるってのの重みが違うってのはあるよね。
0628-34	Author	はたから見るとどうだった？
0628-35	FH	楽しそうでしたけど、[SK]君がとまったときに、二人の助けたいっていうのは、伝わってきました。
0628-36	Author	うん。なるほどね。
0628-37	SK	くそー、うまく言えなかった。

「気づき」の傾向 - 分析のアプローチ

- 4つの切り口にしながらって生徒たちの記述・口述データを色分けによってカテゴリ化
- データ種ごとに記述をまとめ傾向を概観した

事後の振り返り 中学校Y 3年生
中学校Y：EY
お久しぶりです！先生からのLOVE♡LETTERかと思いましたが、違いましたね（笑）！ まず、インタラクティブ市内大会についてですが、楽しかった というのが一番の印象です。みんな仲良く、わちゃわちゃと！言い方悪いですが、点数を気にせず、リラックスしながらできました！もちろん少しは緊張しましたが、県西ほどではありませんでした。そして、自信を持って話すことができました。 県西大会では、朝からとても緊張していました！[MF]のお母さんに送ってもらい、私も含め三人で行ったのですが、10本ノックを練習していて、[MF]におされまくりで...（笑）自信がなくなりました♡ 行ったら、顔が分る子、話しが上手い子などいて、より緊張しましたがせっかく来たからにはがんばろう！と臨みました。全てのトピックで、満足する話はできなかったけど、それはそれでまたいつか同じような時にがんばろうと思いました。とても話すのが上手い子がいました。アクセントや発音がすばらしい子もいました。笑顔で話している子もいました。 自分にしかできないことがあったかどうかは分かりませんが、うまかった！と言われて嬉しくなりました。もう来年参加することはできませんが、[JH]たちをしばぎに行きます[キラキラ]待って下さい。 オーストラリアでは、一日目に古河のこと聞かれ、「My town」と同じようなことを言ったのでとても助かりました！他にも、文法や表現を練習したおかげで、ホストマザーから英語をほめられました！オーストラリアでは、自信にもなりまし、とても役立ちました！ インタラ後は自分の英語に自信ができました。先生にはとても感謝しています。ありがとうございました。よろしくお願いします。受験がんばります！本当にありがとうございました。
中学校Y：MF
お久しぶりです、今でも音楽、勉強、英語、頑張っています。英語交換ノートも再開しました。 私はインタラを通して根拠を持って話せるようになったと感じています。それまではただ何となくで話していたことでも今では理由をとわれたらすぐに答えることが出来るようになりました。 他にも会話に対する意識が変わりました。出る前は相手が自分の話を理解出来なくてもいいし、逆に相手の話を全く理解出来なくても仕様がないと思っていました。でも今はきちんと最後まで自分の話を聞いて欲しいし、自分も最後まで相手の話にとことん付き合いたいと思っています。 私は人見知りがとにかく激しいから去年初めてインタラに出るってなったとき正直気乗りしませんでした。人と会話することが苦手だったから、どうせ出ても何も話せないで終わってしまうと思っていました。でも、他に出場してきた人たちはみんなにぎやかでおしゃべりな人が多かったので安心しました。無口な人が話しやすいような雰囲気を作ることも会話の一部だと考えるようになりました。 オーストラリアでインタラで習得した英語を使いこなすことが出来ました。他にも、日本人相手に英語で話すときに通じる英単語が現地では通じなかったりと、インタラとオーストラリアをつなげて考えれば学べたことも大きくなった気がします。だからこれからも積極的に英語に関するイベントに参加したりしてたくさんさんの場所で自分の意見を英語で述べる事が出来るような大人を目指して頑張ります。 生意気な私にここまで付き合ってくれてうれしかったです。ありがとうございました。
中学校Y：FN
お久しぶりです。インタラの練習に付きあってくれてありがとうございました。 今年の夏は英語づくしでありました。インタラで、自から話し、自分をアピールするということを学びました。オーストラリアの語学研修では、それを生かすことができて、良かったです。まず、現地についてすぐに市内観光をした際に、道に迷った時に、聞けば一番はいいし、インタラで学んだことを生かそう！と思い、近くの人に、道をきくことができました。それ以外にも、ねだんをきく時や、TASで自己紹介した時や、授業の時に質問したりなど、たくさんさんの場面で活用することが出来ました。 一番「生かせた！」と思った時は、ホストファザーの友達の家に行った時に、電子辞書を家に忘れてしまい、とても不安でありました。正直、知らない単語が出てきたら、どうしようなど、ずっと思っていました。しかし、そのホストファザーの友達は、「君は何か夢があるかい？」ときいてきて、私はべらべらと、自分の夢を、英語で語り、すごくほめてくれました。そして、会話に花が咲き、日本のことをたくさん紹介したりしました。その時が一番、「自分が話している英語が、海外にも通用している！」と嬉しく思った時でした。 本当に、インタラに出て良かったと思いました。出る前は、やっぱり自信を持つことができなくて、みんな積極的でスゴいなあ...と思っていたりもししていました。しかし、出てからは、自分の話す英語に・な・り！自信を持つことが出来、さらに、英語の点数が上がり、さらに得意となりました。 もう1つ変わった事は、耳できいた単語を、すぐにかけるようになったことです。例えば、先生が「because」と言っているのに、「because」とノートにかけなく、スペルミスしてしまうのが出る前の私でした。しかし、出てからは、何となくつかんだのが、はじめてきいた単語でも、すぐにかけるようになったのです！（多分、イミフですよね（笑））ようするに、before「becouz」→after「because」ですww 頭で単語が描けるようになったというかな、これは！？とにかく、英語が本当に得意になりました。有難うございました（´0´）

「気づき」の傾向 - 「動画を見る振り返りの調査」

- 会話の様子を録画
- その映像を見て生徒が口述した振り返りを録音
- 調査は3回実施
 - 中学校X：2回
 - 中学校Y：1回
- 言語表現や発音の側面の気づきが表に出ていない
- 会話に参加した生徒たちからは反省的なコメントが得られた

✓言語的側面に関わるもの

- 具体的な英文の復習
- 英文の暗記が必要
- 質問を簡単な表現にする
- 正しい語彙表現

✓言語以外の要素に関するもの

- 話のスピード
- 声の音量や高さ
- 話や会話が流暢でない
- ジェスチャーについて
- 姿勢や他者から見え方
- 目線の配分

✓会話の内容に関するもの

- 自分の話題を言えない
- 言いたいことを言えていた
- 話題を提供された際の対応
- 話題の方向性に対する筆者からの褒め
- 話題が広がらなかったことについて
- 話題の広げ方に対するアドバイス

✓他者に対する態度に関するもの

- 相手の話題に質問できない
- 相手に促した話題に触れられた
- 楽しそうに話していた
- 話題が詰まったときにフォローしていた
- 会話を継続させるための配慮と質問
- 内容を広げづらい話題への対応
- 自己紹介時のニックネームを覚えていない
- 会話の発話バランスを考慮する

「気づき」の傾向 - 「練習日記」

- 練習後に日記を記入するように指示
 - やったこと
 - 気づいたこと
 - 感想
- 会話の内容と他者に対する態度の記述が多く見られた
- 重要なこととしての記述のほかに
できなかった反省としての記述があった

✓言語的側面に関わるもの

- 正確な文法・単語や表現への注意
(日本語の不使用を含む)
- 間違えた、あるいは新たに習った単語や表現
- 英文が覚えられない・出てこない
- 英文を考えたり作成したりすることについて
- 発音への注意
- 英語に慣れるための方法
- アメリカンジョークや英語っぽいリアクション

✓言語以外の要素に関するもの

- 声量やはっきりと話すこと
- ジェスチャー
- 発話スピード
- 相づち
- 目線や姿勢

✓会話の内容に関するもの

- 会話の内容的な流れ
- 会話が止まってしまう(途切れる・進まない)
- 話を広める・深めることについて
- 自分の話題の量(増やす・考える、少ない)
- 具体的な話題の内容について
- 話したいことや聞きたいことが言えない
- 言いたいことが言えた
- 慣れない話題で起きること
- 相手の話題や質問への対処
- ジョーク・ギャグなど

✓他者に対する態度に関するもの

- 楽しい・面白い
- 会話の盛り上がり・雰囲気
- 積極性(話をする、話を振る)
- 相手の話を聞く、言いたいことの予測
- 相手への質問やコメントについて
(考える、浮かばない)
- 相手へのフォローについて
- 会話の発話バランスと主導権
- 友達・仲の良さ・フレンドリーさ

「気づき」の傾向 - 「大会振り返りシート」(上)と「事後の振り返り」(下)

- 各ラウンドと全体の振り返り
 - できたこと／できなかったこと／感想
- 達成できた／できなかったの記述は以下のものに集中した
 - 言語以外の要素に関するもの
 - 自分の言いたいことが言えたかどうか
 - 相手への質問やフォロー

✓言語以外の要素に関するもの

- 声量や明瞭性
- ジェスチャー
- 発話スピード
- 相づち・リアクション

✓会話の内容に関するもの

- 自分の話題・意見・エピソード
- 相手の内容の理解

✓他者に対する態度に関するもの

- 相手への質問やコメント
- 楽しい・面白い
- 会話の盛り上がり・雰囲気
- 積極性(話をする、話を振る)
- 相手へのフォローについて
- 会話の発話バランス

- 大会 5 ヶ月後に自由記述で質問
 - 学んだこと
 - 難しかった・楽しかったこと
 - 出場する前後での変化
- 自信がついた、楽しかったなど肯定的な回答が多かった
- 「英語」への学習動機が高まったという記述が見られた

✓言語的側面に関わるもの

- 英語がもっと好きになった
- 英語に自信がついた、得意になった
- 英語を褒められた

✓会話の内容に関するもの

- 相手の話を理解して内容を広げたい
- 自分の意見が話せるようになった
- 本番では自分の語りができなかった

✓他者に対する態度に関するもの

- 楽しかった
- やってよかったと思う
- また参加したい
- コミュニケーションの大切さ
- 会話に対する意識の変化

「気づき」の傾向 - まとめ

- I.E.F.を通じた気づきとして挙げられている内容に、**言語の形式的な側面はあまり見られない。**
- 生徒自身の気づきの多くは**反省的な内容**である。その反省に基づいて**次回の改善を志向**しており、決して動機づけを下げている訳ではない。
- 練習過程での気づきは、**話題の内容に関することか、他者に対する配慮や対応に関するものである。****言語以外の表現や発音**に関する気づきは、**本番が近づくにつれて**増えてくる。
- 大会当日の感想には、**コミュニケーション行為全般に通じる気づき**が見られる。また、I.E.F.事後においては**意欲や自信を高めたという振り返り**が見られる。

「捉え方」と「態度」- 分析のアプローチ

- 生徒個々人の記述に焦点を当て、特徴的な記述を抽出
 - 4つの切り口いずれにも分類出来なかった記述
 - 複数要素にまたがって分類が困難であった記述
 - 分析においてキーワードとなると思われる記述

- 自信の源泉：成功体験と、練習の成果の発揮
- 「うまくいかなかったこと」と他者の存在
- 「言いたいことが言えない」とことと
「会話が止まる」ことについて
- 「コミュニケーション」の捉え方

- 「自信」という記述をする生徒は2つの側面が見られる
 - 言いたいことを伝えることができた、褒められたなど、**英語を使うことやコミュニケーションにおける成功体験**

中学校Y FN 事後の振り返り

出る前は、やっぱり自信を持つことができなくて、みんな積極的でスゴいなあ...と思っていたりもししていました。しかし、出てからは、自分の話す英語にか・な・り！自信を持つことが出来、さらに、英語の点数が上がり、さらに得意となりました。

中学校Y EY 事後の振り返り

- [*地区大会において]自分にしかできないことがあったかどうかは分かりませんが、うまかった！と言われて嬉しくなりました。
- 文法や表現を練習したおかげで、ホストマザーから英語を褒められました！オーストラリアでは、自信にもなりましたし、とても役立ちました！

- 「自信」という記述をする生徒は2つの側面が見られる
 - 言いたいことを伝えることができた、褒められたなど、英語を使うことやコミュニケーションにおける成功体験
 - **練習を積み重ねてきた成果を発揮出来たかどうか**

中学校X FH 事後の振り返り

- 私に悔しい、難しいなど自分への反省が出てきたのは、インタラクティブというものに心から真剣に取り組んだからこそだと思います。たくさんの努力をしたことで、自分への自信、そして楽しむということが段々できるようになりました。だからこそ、本番自分の努力に結果が比例していないような気がしました。
- でも、数日経ち考えてみると.....たくさんのgood pointばかりが出てきました。反省や悔いが未来への自分の糧になっているんだと思いました。そして、インタラをやる前と比べて「自分は1つのコトに一生懸命にこんなにもがんばれるんだ」と自分への自信、そして発見することができ、今では何に対しても熱心に取り組んでいます。

「捉え方」と「態度」-「うまくいかなかったこと」と他者の存在①

- 「うまくいかなかった」という自己反省は
他者との会話によって促されていた

中学校Y IS 事後の振り返り

自分のかたりに持っていければよかったのですが、相手に先に取りられるか、語っていてもものっとなられてしまいました。相手の話が自分も分るときは何とか流せましたが、知らないことを言われると良く分りませんでした。.....練習をもっと早くからやっていたら自信を持って望む[*臨む]ことができたと思います。

中学校Y FN 市内大会の振り返りシート

上には上がいるもんだなあーって思って...色々ショックだった。今の自分じゃまだまだ通用しないなって思いました。(全体の感想)

「捉え方」と「態度」-「うまくいかなかったこと」と他者の存在②

- 「うまくいかなかった」という自己反省は他者との会話によって促されていた
- そうした反省が**気づきにつながっている場合もある**

中学校Y IH 市内大会の振り返りシート

R1できなかったこと：話が止まってしまった (...>_<...) 声小さかった[汗]

R2できなかったこと：もっとエピソードを加えて話せば良かった！(泣)

R3できなかったこと：◇大きな声◇で話すこと。

全体の気づき： ◇英語のポイント◇1.大きな声で話す。2.自分の伝えたい事を考えておく。3.楽しそうにニコ×2しながら話す。

「捉え方」と「態度」-「言えない」ことと「止まる」ことについて①

- **「言いたいことが言えない」現象**には3つの側面がある
 - トピックに即した話題が思いつかない
 - 話題を持っているのに会話の流れのなかで発言できない
 - 英文を思い出そうとして会話が止まってしまう

中学校X RF 練習日記

6月14日：所々で止まってしまう部分がある (気づいたこと)

しっかりと暗記をしなければならない (感想)

6月21日：質問が頭の中でまとまらない (気づいたこと)

7月 1日：文が頭から消えない様にする (気づいたこと)

中学校X MG 練習日記

-英文がでてこない…。これってスランプ…!?

-Friendって聞く事ことあるのに何故かでてこない…

-相手におびえないで！どんどん、つつこめ!!

-相手をひきずりこもうよ！

「捉え方」と「態度」-「言えない」と「止まる」ことについて②

- 「言いたいことが言えない」現象には3つの側面がある
 - トピックに即した話題が思いつかない
 - 話題を持っているのに会話の流れのなかで発言できない
 - 英文を思い出そうとして会話が止まってしまう
- 「会話が止まった」時には、**質問やコメントによって会話を維持しようと心がけている**

中学校Y EY 練習日記

6月27日：質問が分からなさそうだったら、例えば～？とフォローする。

中学校X FH 練習日記

6月28日：相手が止まったらそく助ける

中学校X MG 練習日記

6月30日：相手がこまったら「for example」で助けよう！

- 「会話の主導権」や「会話のバランス」、
「会話の盛り上がり」についての記述が見られた

中学校Y MF 練習日記 7月5日

どんな言葉でどんなふうに人をひきつけるかが重要だ.....
ひきつけ方次第でその後の会話の弾み方が全く違うし、
反応も違った。(気づいたこと)

中学校X FH 練習日記

6月1日：自分ばかり話してはダメ (気づいたこと)
6月7日：相手の事をどのくらい引き出せるか？
相手とのバランス (気づいたこと)
6月27日：相手のことも考えつつ自分の文も入れていく
(気づいたこと)

「捉え方」と「態度」-「コミュニケーション」の捉え方②

- コミュニケーションへの捉え方が変化した生徒もいた
 - シャイ・人見知りという意識からの変化
 - 「英語を読めばいい」という発想からの変化

中学校Y MF 事後の振り返り

人見知りがとにかく激しい.....人と会話することが苦手だったから、どうせ出ても何も話せないで終わってしまうと思っていました。でも、他に出場してきた人たちはみんなにぎやかでおしゃべりな人が多かったので安心しました。無口な人が話しやすいような雰囲気を作ることも会話の一部だと考えるようになりました。

中学校X SK 練習日記

6月14日：読む練習をした。(やったこと)

ツツコミ方が少しだけわかってきた。(気づいたこと)

6月28日：上手くなるようにたくさん読んだ。(やったこと)

ひたすら読めば大丈夫V。(感想)

中学校X SK 事後の振り返り

特に一番心に残っているのは、やっぱりジェスチャーですね。バッタ、チョウチョウ、クワガタなどのジェスチャーをいれたのはおもしろかったですね。

「捉え方」と「態度」- まとめ

- 生徒たちが得た自信は、**成功体験**や、**努力を積み重ねたこと**に起因している
- 「うまくいかなかった」ことの反省は、**他者と接する**なかでの自己評価から生じる
- 「言いたいことが言えない」という反省は、トピックの**内容が考えられていない**こと、考えたことを**会話のなかで発言できない**こと、「言いたいこと」を**思い出せなかった**りその場で思いついたことを**適切な語彙や文法で表現出来ない**こと、などで生じている
- **会話が止まる**現象は「言いたいことが言えない」ことで起きるが、他者がその状況になった場合は、**質問・コメントを通じて「助ける」**という姿勢を示している
- コミュニケーションの捉え方として、会話の**主導権を握って**流れや雰囲気を作ること、会話の**バランスを保つ**こと、会話を**盛り上げるための工夫**を重ねること、が必要であると認識している
- 人と**話すことが苦手**と感じる生徒や、**英語を読めばいい**と思っていた生徒たちが、「コミュニケーションや英語の**捉え方が変わった**」という認識を示している

- はじめに
 - 研究の目的・背景・研究事例について
- コミュニケーション能力とコミュニケーションへの態度
 - 「コミュニケーション能力」の学術理論の整理・検討
 - 学習指導要領における「コミュニケーション能力」の概観
- 英語インタラクティブ・フォーラム2012の質的調査・分析
 - 先行研究に基づく仮説と分析の観点の整理
 - 生徒から得られた記述・口述のデータの分析と結果提示
- **考察と結論**
 - 質的調査・分析の結果の考察と、論文全体の結論

考察のまとめ ①

- 生徒たちの「コミュニケーション」への気づきの内容
 - トピックに沿った**会話の内容**についての気づき
 - 相手への**質問・コメント・フォロー**や会話全体の**雰囲気・発話バランス**などについての気づき
 - **I.E.F.の特徴**によって方向付けられた「I.E.F.に対する気づき」
- 生徒が示す「コミュニケーション」への態度
 - コミュニケーションについて**肯定的な捉え方**を示した
 - **成功体験**や**練習の積み重ね**による「自信」
 - 「**他者に対する態度**」の**気づき**が捉え方に影響する
 - 「**うまくいかない**」**経験**が「**難しい**」という捉え方に影響する

考察のまとめ ②

- 気づきと態度の関係性
 - 「うまくいかなかった」経験を、自己評価するだけでなく、**他者と接することを通じて**評価し、**反省**していた
 - 「次はうまくやりたい」という動機を伴い、**反省を改善するための気づき**をもたらした
 - 気づきに基づいて改善した行動から**成功体験を得る**か、気づきを行動につなげる**過程を肯定的に評価**することで**自信**をつけたり**意欲**を高めたりしていた
 - この一連の流れは、I.E.F.の**コンテストとしての側面**が仕掛けとして働いていたと考えられる

本研究の結論

- 会話コミュニケーションを重視した外国語教育は
コミュニケーションに対する気づきを促し、
コミュニケーションへの自信や意欲などの肯定的態度を
生徒たちに内在化させる可能性があることが示唆された
 - **他者を通じて**、コミュニケーションに必要なことに気づき、
行動にとりいれることで、自信や意欲を高めていった
 - 出場した生徒たちの根底には「**うまくやりたい**」という
動機づけがあった
- ただ「**相手に伝わらない経験をする**」だけではなく、
失敗体験から得た気づきを**成功体験に結びつけたり**、
練習を重ねること自体を**評価したりする**必要がある

本研究の課題と展望

- 「コミュニケーション」に関する学術研究の検討
 - 「コミュニケーションとは何か」という点の検討
- 生徒たちの実際のパフォーマンスの検討・評価
 - Saito(in printing) の示した新たな審査基準での研究の可能性
- 統制群としての非出場者を含めた研究
 - もともと意欲の高い・成績の良い生徒が集まりやすい
- コミュニケーション全般に渡る「気づき」「態度」の検討
 - より長期的な縦断研究の必要性

- 遠藤 忍 (2012. 3). 「外国語教育における会話活動を通じた, 中学生のコミュニケーション意識の変容 ～英会話コンテスト出場者へのアンケート分析を通じて～」, 社会言語科学会 第29回 研究発表大会 口頭発表, 桜美林大学.
- 遠藤 忍 (2012. 8). 「英会話を通じたコミュニケーション意識の変容に関する研究 ～茨城県 英語・インタラクティブフォーラムを題材に～」, 関東甲信越英語教育学会 第36回 群馬研究大会 口頭発表, 共愛学園前橋国際大学.

- Benett, J. M. (2009). Cultivating Intercultural Competence: A Process Perspective, In D. K. Deardorff (Eds.), *The Sage handbook of intercultural competence* (pp.121-140). CA: Sage.
- Canale, M. (1983). Form communicative competence to communicative language pedagogy. In J. C. Richards, & R. W. Schmidt (Eds.), *Language and communication* (pp.2-27). New York: Longman.
- Canale, M., & Swain, M. (1980). Theoretical basis of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, I(1), 1-47.
- Chomsky, N. (1965). *Aspects of the theory of syntax*. Cambridge, MA: MIT Press.
- 遠藤 忍 (2011). 『普遍的なコミュニケーション能力と学校外国語教育—茨城県・英語インタラクティブフォーラムの調査・分析』 湘南藤沢学会.
- 言語力育成協力者会議 (2007). 「言語力の育成方策について」, <http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/07081717/004.htm> (2012年12月25日).
- Gudykunst, W. B. (2005). An Anxiety/Uncertainty Management (AUM) Theory of Effective Communication. In W. B. Gudykunst (Eds.), *Theorizing About Intercultural Communication* (pp.281-322). CA: Sage.
- Hashimoto, Y. (2002). Motivation and Willingness to Communicate as Predictors of L2 Use: The Japanese ESL Context, *Second Language Studies*, 20(2), 29-70.
- 平田オリザ (2011). 『わかりあえないことから—コミュニケーション能力とは何か』 講談社.
- Hymes, D. (1972). On communicative competence. In A. Duranti (Ed.), *Linguistic Anthropology: A reader* (pp.53-73). MA: Blackwell.
- 茨城県教育庁 (2012). 「平成24年度 英語インタラクティブフォーラム開催要項」.
- 池田 理知子・クレマー, M. エリック (2000). 『異文化コミュニケーション・入門』 有斐閣.
- 経済産業省 (2010). 「大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査」, <[http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/201006daigakuno\[syakaijinnkan\]nohaakutoninntidokoujyounikansurutyousa.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/201006daigakuno[syakaijinnkan]nohaakutoninntidokoujyounikansurutyousa.pdf)> (2012年12月15日).
- Lustig, M. W., & Koester, J. (2003). *Intercultural competence: Interpersonal communication across cultures*. Boston: Allyn and Bacon.
- MacIntyre, P. D., Clément, R., Dörnyei, Z., & Noels, K. (1998). Conceptualizing willingness to communicate in a L2: A situational model of L2 confidence and affiliation. *Modern Language Journal*, 82, 545-562.
- 箕浦 康子 (1998). 「仮説生成の方法としてのフィールドワーク」, 志水 宏吉『教育のエスノグラフィー—学校現場のいま』 嵯峨野書院.
- 文部科学省 (2008a). 『中学校学習指導要領解説 総則編』 ぎょうせい.
- 文部科学省 (2008b). 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 開隆堂出版.
- 文部科学省 (2011). 「言語活動の充実に関する指導事例集 ～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」, <http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/05/30/1306108.pdf> (2012年12月25日)

- 長澤 邦紘・田邊 一男 (2001). 「Interactive English Forum 1999:茨城県における実践的コミュニケーション能力育成の試み(その 1)」, 『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』 50, 129-144.
- 長澤 邦紘・田邊 一男 (2001). 「Interactive English Forum 1999:茨城県における実践的コミュニケーション能力育成の試み(その 2)」, 『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』 50, 145-158.
- 小田 博志 (2010). 『エスノグラフィー入門—＜現場＞を質的研究する』 春秋社.
- Saito, H. (2011). Issues in rating junior high school students' speaking performance in a discussion contest: A case of the Ibaraki Interactive English Forum. *The 15th Annual Conference of the Japan Language Testing Association*.
- Saito, H. (in printing). The Development of a New Assessment Form for the EFL Discussion Contest for Junior High School Students—Ibaraki Interactive English Forum. 『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』.
- Savignon, S. J. (1997). *Communicative competence: Theory and Classroom Practice*. 2nd ed. New York: McGraw-Hill. (草野バベル 清子, 佐藤一嘉, 田中春美訳 (2009) 『コミュニケーション能力—理論と実践』 法政大学出版局.)
- Spitzburg, B., & Cupach, W. (1984). *Interpersonal Communication Competence*. CA: Sage.
- Spitzburg, B., & Cupach, W. (2011). Interpersonal Skills, In L. M. Knapp & J. A. Daly (Eds.), *The SAGE Handbook of Interpersonal Communication* (pp.481-524). CA: Sage.
- Takahashi, S. (2012). Individual Differences and Pragmalinguistic Awareness: A Structural Equation Modeling Approach. *Language, Culture, and Communication*, 4, 103-125.
- 高梨 克也・平本 毅 (2011). 「ミーティングの周辺の参加者が何かに気づくとき」, 『電子情報通信学会技術研究報告. HCS, ヒューマンコミュニケーション基礎』 111(190), 77-82.
- 田中 茂範・深谷 昌弘 (1998). 『「意味づけ論」の展開—情況編成・コトバ・会話』 紀伊国屋書店.
- 往住 彰文 (2002). 「態度」, 日本認知科学会=編 『認知科学辞典』 共立出版.
- 山中 司 (2006). 『コミュニケーションを重視した大学英語教育における発信能力の評価—基礎研究と評価モデルの提案』 湘南藤沢学会.
- Yashima, T. (2002). Willingness to communicate in a second language: The Japanese EFL context. *Modern Language Journal*, 86, 54-66.
- 八島 智子 (2004). 『外国語コミュニケーションの情意と動機—研究と教育の視点』 関西大学出版部.